

2023年2月現在、日本には46の日本ジオパーク地域があります。そのうち「洞爺湖有珠山」「アポイ岳」「糸魚川」「隠岐」「山陰海岸」「室戸」「阿蘇」「島原半島」「伊豆半島」の9地域が、ユネスコ世界ジオパークに認定されています。

ジオパーク地域が共同でイベントを開催したり、共通の地域課題を解決するためにアイデアを出し合ったりしていますが、児童生徒の学習機会としてジオパーク同士の交流を行っている地域もあります。令和5年2月、室戸ジオパーク（高知県室戸市）の高校生3名が洞爺湖有珠山ジオパークを訪れ、虻田高校の生徒と交流しました。

虻田高校生との交流、ジオパークの見どころを見学！



令和5年2月8日、虻田高校の教室で、室戸ジオパークの高校生3名と虻田高校生の4名が、互いに自地域の紹介を行いました。

その後、一緒に有珠山ロープウェイに乗り、火口原展望台まで散策。室戸市ではほとんど雪が降らないため、雪景色をととても新鮮に感じたようです。また、噴火を繰り返す火山が生活圏にあるということにも驚いていました。

室戸ジオパークはどんなところ？



室戸ユネスコ世界ジオパークは、高知県室戸市全域がエリアです。2011年に世界ジオパークに認定されました。

室戸ジオパークは、海洋プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでいく影響で、過去に何度も巨大な地震が起こっており、そのたびに新しい大地が生まれてきました。

室戸半島の東海岸は、沖に向かって急角度に落ち込む断層崖になっており、海洋深層水（太陽光が届かない水深200mより深い海水）がこの崖にぶつかって上昇するため、陸から比較的近いところで海洋深層水がくみ上げられます。ミネラル豊富なこの水を利用した塩づくりの他、様々な商品開発が続けられています。

また、崩れやすい斜面でも育つウバメガシを原料にした土佐備長炭が作られています。明治後期から土佐備長炭の生産で栄えた吉良川町には、蔵やいしぐろ塀（玉石や半割石を積み上げて造った塀）を備えた伝統的な街並みが残されています。現在でも備長炭を生かした製品開発が盛んに行われています。

